

【課題や原因】

(食習慣・おやつ)

- 小さい頃からグミが好きだと大人になっても同じなのかと思う。小さい頃からの習慣なのではないか。
- グミはチャック式の容器であることが多いので、だらだら食べることに繋がっていると思う。
- グミは噛むから歯にいいと思っている高齢者も多いのではないか。
- できればキシリトール 100%あるいは 50%など砂糖の量が少ない物を選んで食べさせるようにした方がよい。
- 子どもの場合には、歯が若く、むし歯になるリスクが高いことから、キシリトール 100%など、できるだけ砂糖が少ないものを選んで食べさせた方がいい。
- 水・お茶・牛乳を飲んでいるということは、小さい頃の習慣が大きくなってでも継続するので、いい習慣がついていくのではないかと思う。

(生活習慣・歯みがき習慣)

- 小・中学生の昼食後の歯みがきの割合が減少している。なぜ減少したのか。
- むし歯は減少しているが、歯肉炎や歯周炎は増加していることから、取組が必要。
- 日々の手入れに関することで悪化傾向があれば、対策をとった方がいい。

(むし歯予防)

- 未実施園ではフッ化物洗口の機会がないという、機会の損失は大きな問題であることから、しっかり取り組んでもらいたい。
- フッ化物洗口に小さい頃から慣れておくことは大事なことである。
- 子ども達のためにフッ化物洗口はぜひ実施してもらえるように尽力してもらいたい。
- 園でのフッ化物洗口はすごく助かるという声がある。
- 3歳児健診までは、保護者が直接、歯科衛生士から話を聞く機会があるが、学校に上がると専門的な知識を得る機会が少なくなる。
- 80代の(施設)利用者は、歯の根元のむし歯で歯が折れてしまう方が多くいる。自分の歯で食べることを、食べる楽しみを保つため、受診につなげている。

(歯科健診・受診行動)

- 忙しい青壮年期にできるだけ歯科健診を受けてもらいたい。
- 歯周病検診の実施方法や機会の設け方を考えてもらいたい。
- 学校歯科健診後、すぐ受診する家庭とそうでない家庭と二極化が進んでいる。

(その他)

- 保護者が健康に気を配るようになると、子ども達の歯の衛生にも目が行くのではないか。
- いい習慣が小さい頃につけば、大人になっても続くのかと思うと、保育園のうちに取り組んでいければと思う。
- ますます高齢者が増えていき、介護予防の必要性が高くなっている。要介護にならないためにどのように取り組んでいくといいか。
- 市から配布された歯科医院一覧は車いすに対応できる歯科医院が分かり、便利である。
- 訪問歯科健診事業について、制度改正があったことから、指標の取り扱いの検討が必要。

【今後の取組・次期計画へ向けた対策】

○年代に応じた対策

(乳幼児期・学童思春期)

- ・保護者が仕上げみがきをすることは大切だと思うので、しっかり啓発していくことが有用。
- ・家庭や子どもにアプローチをし、歯みがきの大切さを伝えることを強化してはどうか。
- ・4歳児は毎日仕上げみがきが必要だと思うので、保護者への意識づけに尽力してもらいたい。
- ・フッ化物洗口について、未実施園の理解が得られなければ、専門家に話をしてもらってはどうか。
- ・保護者世代の意識改革ができるといい。口と身体の健康について働きかけが必要。
- ・小学校から高校までは、親の手が離れる時期ではあるが、保護者に意識をもってもらえる機会があるといい。
- ・高校生や大学生にも啓発していくことが必要。

(青壮年期・高齢期)

- ・歯周病について、特に青壮年期では、心臓病や脳血管疾患とも関わりがあることから、身体の病気と関わっていることをアピールしてもらいたい。
- ・高齢期では、オーラルフレイルを予防することで、認知症予防や誤嚥性肺炎の予防にもつながることから併せてアピールするといい。
- ・高齢になっても自分の口からおいしい物を食べることは基本である。それができるよう対応してもらいたい。

○その他の対策

(連携)

- ・歯の健康展や甘味飲料講座などで、本日配布されたチラシの内容について案内してはどうか。
- ・歯と身体の健康を一緒に案内(啓発)してはどうか。
- ・全体的な健康づくりの中で、歯の健康についても連携して取り組めるといい。
- ・歯科疾患予防が内科疾患の予防につながるので、定期的な歯科健診につなげてもらいたい。

(食習慣)

- ・菓子類についても、どのくらい砂糖が含まれているかを啓発していくといい。
- ・おやつに含まれる砂糖の量については、一概に量を示すことが出来ず、なかなか難しいが、そのような資料があるといい。
- ・学校の授業などで、お菓子に関しても小学生は自分で気をつけようという気づきを持つ活動が増えるといい。

(ライフコースにあわせて)

- ・各年代に応じた歯科保健のアプローチをしていてもらいたい。
- ・(障がいのある方の) 歯科に関する悩みは増えてくると思うので、支援者に向けての研修などがあるといい。
- ・(食生活改善推進員が) 歯の健康に関心を持ち、食生活と併せて考えていく必要がある。